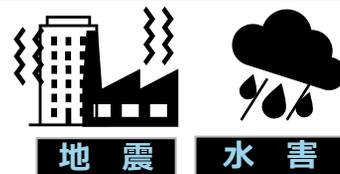


# テーマ：外部連携による取り組み

## タイトル： 経営陣の指示や他社との「つながり力」 を重視



### ポイント

- 経営陣の迅速・的確な指示を重視し、マニュアルはシンプルにまとめ、あらゆる災害に対応する柔軟性を確保
- 同業者・取引先と助け合う「つながり力」が強み

### BCP策定のきっかけ

- 同社は1972年に設立した「味千ラーメン」を提供する食品製造メーカー。
- 平成28年熊本地震において本社工場の生産ライン等に大きな被害を被ったことをきっかけに、「危機管理基本マニュアル」と「自然災害対応マニュアル」を整備。
- 地震から2日後には仮復旧を果たし、県内各地で被災者向けのボランティア炊き出しも開始したが、これは、経営陣の迅速・的確な指示と他県からも同業者が駆けつけ、資材提供、代替生産、見舞金など手厚い支援を受けたことによるもの。
- 当社におけるBCPと事業継続力の本質は、書面化されたマニュアルや規定よりも、こうした柔軟性と関係者との強固な連携そのものにある。

### BCP策定時の課題と解決方法

- 災害は一つとして同じものではなく、その時々状況によって優先すべき事項も変化しうる。また、手順や規定をいくら詳細に定めても、いざという時に簡単に参照できなければ役に立たない。このため「自然災害対応マニュアル」には、災害毎に「やるべきこと」のみを定め、上位規定として「危機管理基本マニュアル」に基本原則をシンプルに集約。また、基本マニュアルは、社員全員がいつも携帯している手帳型の「経営計画書」に記載されており、いつでも参照できるようにしている。

### 策定した内容

- マニュアルは、簡潔でなければ危機時には役に立たない、という考えに基づき、目的、言葉の定義、権限、所要の連絡先等をシンプルにまとめている。
- 被災時、具体的に何を、どの順序でやるかは、経営幹部が状況に応じて適切に指示を出すこととしている。

### BCP策定後の効果

- 熊本地震を機に、本社工場は耐震構造とした上で現位置に移転（周囲よりやや高所になっており、水害にも遭いにくい）し、設備面でも非常用電源となる太陽光発電の屋上設置、非常用ヘルメットの備蓄などの防災対策を講じている。また、消防署の指導を受けながら防災訓練を毎年実施し、従業員の意識レベルの維持を図っている。同時に、同業他社や取引先との「被災した時は全力で助け合うことが当たり前」という強固な「つながり力」を重視し、現在でも遠方の被災事業者のもとへすぐに支援に駆けつけるとともに、阪神・淡路大震災以降、被災地における炊き出し支援も継続している。
- 熊本地震時には、被災企業にも関わらず、迅速な復旧と被災者へのボランティア炊き出しを展開したことが評価され、特定非営利活動法人事業継続推進機構が行うBCAOアワード2016「震災特別賞」を受賞。今後も引き続き、形式に拘らない臨機応変な対応力と「つながり力」による事業継続力の強化を図ることを目指している。



本社工場の外観



被災地における炊き出し



手帳型の経営計画書



消防訓練の様子

### 【企業概要】

組合名：重光産業株式会社  
所在：熊本県菊池郡菊陽町辛川448  
資本金：6,450万円  
従業員数：90名  
業種：食品製造業  
企業HP：<http://www.aji1000.co.jp/>

### 活用施策

特になし